



H30スローガン
「協働」



平成31年1月7日(月)
発行所：中部教育事務所



授業改善に効果を発揮する手立てを紹介します！

① サンプル問題を解き、授業改善のヒントをつかもう！

ある学校では、全国学力・学習状況調査のサンプル問題を活用した授業づくりに取り組んでいます。

- ① 全職員で全国学力・学習状況調査のサンプル問題を解く。
- ② 出題の意図や傾向、今求められている学力などについて考えをもつ。
- ③ グループや中間ミーティングを通して、それらの内容を日々の授業改善にどのように結び付けていくか話し合う。
- ④ 話し合った内容を授業で実践する。
- ⑤ グループ内で授業を相互参観する。
- ⑥ 個々の授業のフィードバックを行う。
- ⑦ グループ内で課題をシェアする。

今、求められている授業は？	だから、わたしの授業は～こうします
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「何ができるようになるのか」を明らかにした授業。 ○ 多様な考えを引き出し、解決したいという意欲を高める授業。 ○ 目的に応じた「読み」を意識させる授業。 ○ 自分の考えを広げたり深めたりするために「書く」ことを意識した授業 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元等のねらいを明確に設定し、実現している子どもの姿（評価規準）を具体的に想定する。 ○ 多様な意見を認め、お互いに共有しながら解決に導くような場を設定する。 ○ 「内容を把握する読み」「聞き手を意識した読み」など観点を示し習熟をさせる。 ○ 新聞、読み物、統計その他の資料を基に、根拠に基づいて考えをまとめることができるようにする。

その他
<ul style="list-style-type: none"> ○ 日々の課題（宿題プリント等）～内容の充実と継続的取組 ① 国語科において、初読の文章問題の読解が苦手なので、継続して取り組ませる。（1学期から取り組んでいる。）PISS 型の問題集からの出題も行う。 ② 算数科においては、授業で学んだ内容を復習できる課題を出し、基礎的な学習内容の定着を図る。また、既習内容の単元について、繰り返し課題を出す。 ③ 社会科・理科においては、単元や内容にあったものを週末課題として出す。（プリント及び自学メニュー） ○ Webの実施 ① 算数科で単元終了後、実施していく。 ② 今回の結果を受けて、4年生の内容から復習していく。 ○ メニュー学習 ① こつこつ継続的取組（小さな取組の継続を大事に） 月～都道府県名、庁所在地（地域ごと） 火～英単語（線に書く活動に慣れる。ステップアップとして英単語を覚える児童が増えることを願う。） 水～脳トレ（みやにち数独より） 木～国算クイズ（脳トレ） 金～新聞の活用（9月より実施。当日子どもも新聞を中心に記事を取り上げ、内容の取り取りや、自分の考えを記述する取組） 読み声～保護者の見届け印をいただく。登日、担任で確認。 ○ 全国学力調査と県数学テストの過去問へと取組 ① 12月から3月にかけて、全国学力調査過去問に取り組む。（国語・算数） ② 2、3月で県数学テスト（中学入学後すぐ実施される）の過去問題に取り組む。 ○ 読書の推進



左はある授業者の授業改善計画です。学力調査の結果を授業にどう落とし込むかを具体化しています。

② 授業スタンダードモデルを授業メモとして活用！

下は、本事務所が授業改善ツールとして推奨している授業スタンダードモデルの一例です。左側に一般的な指導（学習）の流れを示し、右側の空白部分に発問や評価の方法、留意点など必要な内容を必要なだけ記入できるようにしたもので、学習指導案ほど時間や労力を掛けずに授業の流れを整理する、言わば「授業メモ」的な役割をもたせています。本事務所のホームページからダウンロードできますので活用ください。

中部教育事務所「授業スタンダードモデル」 構想メモ版

授業者 教科 単元 年 月 日 ()

—本時の目標— 本時を通して「何が分かるようになるのか」「何ができるようになるのか」目標に到達した児童生徒の姿を具体化する。

既習内容の想起・レディネス等
既習内容から本時学習へのつながりを意識する。

事象・問題の提示
「なぜだろう」「解決したい」と思わせる問題提示を工夫する。

めあて・学習課題の確認
「〇〇がわかる」「〇〇ができる」などのゴールイメージを児童生徒と共有する。

—めあて—

学習の見通し
学習の流れや方法を確認したり、結果を予想したりすることで学習の見通しをもたせる。

問題・課題の解決
個人思考や自力解決、グループでの意見の交流や全体での振り返りをバランスよく設定する。

まとめ
本時の目標に対し、「分かったこと」や「できたこと」をまとめ、全体で確認する。

—まとめ—

習熟・定着
10～15分間確保する。
到達した姿（評価規準）評価方法を明確にする。
個に応じた指導や学び合いの場を設定する。
本時の学習を振り返る。

上記2つの手立てを参考にしながら授業改善を図っていただきたいと考えます。また、「学びの確認」として、各種調査問題等の活用もお願いいたします。各学校の授業改善に向けての取組がさらに活発になりますことを願います。

